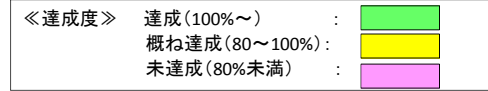


# 新農林水産業元気再生戦略成果指標の達成状況等（平成29年3月現在）

資料2-2



分野・品目	項目	基準年		H25年	H26年	H27年	H28年			H28年の概況 (達成・未達成の理由)
		年次	基準値	実績	実績	実績	目標	実績	達成度	
<b>【共通】</b>										
共通	農業のトップランナー数									
	・販売金額1,000万円以上の家族経営体(経営体)	H23	2,400経営体	2,400経営体	2,600経営体	2,351経営体	3,200経営体	2,700経営体	84.4%	・オーダーメイド型助成のほか各種事業において経営発展に向けた支援を行ってきたことにより、トップランナー数の目標は概ね達成した。(農業構造動態調査(抽出調査)/アンケート調査による推計値)
	・販売金額3,000万円以上の組織経営体(経営体)	H23	—	—	—	199経営体	400経営体	390経営体	97.5%	
	農と食の逸品づくり産地数									
	地域における農と食の逸品づくりに取り組む産地数(H25からの累計)	—	—	25	34	41	44	44	100.0%	・H27年度までの取組み実績41件に加え、H28年度に新たに3件の取組みに対する支援を実施し、目標を達成。
<b>【担い手・人材育成】</b>										
人担 材い 育手 成・	新規就農者数(人/年)	H24	219人/年	251人/年	264人/年	280人/年	300人/年	300人/年	100.0%	・新規就農者数については、動機付けから就農準備、就農、定着まで各段階に応じたきめ細かな支援を行ってきたことにより、達成した。
	農地所有適格法人の数(法人)	H24.1月	210法人	248法人	268法人	299法人	法人経営の認定農業者に目標変更	—	—	・9月下旬公表予定(農林水産省)であるが、28年度から実施している各総合支庁の法人化支援チームや法人化研修、アドバイザー派遣等の取組みにより、430法人は概ね達成の見込み
	法人経営の認定農業者数	H25.3月	268法人	289法人	332法人	401法人	430法人	H29.9判明予定	—	
<b>【土地利用型作物】</b>										
米	特Aの評価継続	H24年産	特A	特A	特A	特A	特A	特A	○	オールやまがた米づくり日本一運動等でJA等関係機関と一体となった取組みを実施し、特A評価を継続している(特A獲得:つや姫、ひとめぼれ)。
	日本一高い一等米比率	H24年産米 H24年3月末	全国7位 (88.5%)	全国3位 (95.3%)	全国6位 (93.1%)	全国3位 (94.8%)	日本一 (95%以上)	全国3位 (95.4%)	×	オールやまがた米づくり日本一運動等でJA等関係機関と一体となった取組みを実施し、1等米比率について安定して95%以上を目指すこととしているが、全国順位は3位であった。

分野・品目	項目	基準年		H25年	H26年	H27年	H28年			H28年の概況 (達成・未達成の理由)
		年次	基準値	実績	実績	実績	目標	実績	達成度	
米	高評価									
	・「つや姫」の価格ポジション維持	H24産当初 相対取引基 準価格(全 農)	新潟コシヒカ リ以上 (18,000円/ 60kg)	新潟コシヒカ リ以上	新潟コシヒ カリ以上	新潟コシヒ カリ以上	新潟コシヒカ リ以上	新潟コシヒカ リ以上	○	実証ほ担当農家等研修会の開催などによる良食味・高品質安定生産、テレビCM等による認知度の更なる向上などにより、28年産米について、出回りから平成29年3月までの年産平均相対取引価格(17,916円/60kg)が、新潟産一般コシヒカリ(16,283円/60kg)を上回った。
	・県産米全体の価格の向上 (はえぬき相対取引価格/全銘柄平均)	H24産 はえぬき (H25.1)	98.0%	96.0%	91.0%	95%	価格の向上	97%	△	一等米比率(H29.3.31現在)が95.4%(水稲うち玄米)と高品質となり、28年産米全銘柄平均相対取引価格(出回り～29年3月、14,287円/60kg)に対する山形はえぬきの年産平均相対取引価格(13,822円/60kg)の割合が97%となり2ポイント向上した。また、27年産はえぬきの同価格(12,445円/60kg)よりも上昇した。
	儲かる米づくり									
	・東北一低い米の生産費 (60kg当たり全算入生産費)	H23年産米	東北4位 (13,740円)	東北2位 (12,876円)	東北2位 (12,486円)	東北2位 (12,546円)	東北一	H30年3月頃 公表予定	—	都道府県別のデータ公表後に取りまとめ予定。
	・日本一高い水稲10a当り収穫量 (水稲10a当り収穫量)	H24年産	全国3位 (604kg)	全国3位 (608kg)	全国1位 (623kg)	全国2位 (614kg)	日本一	全国2位 (608kg)	×	各地域での低コスト多収栽培技術の実証ほ設置や現地検討会等の開催により高い収量は維持したが目標は未達成。 【他県の概況】 1位長野(624kg)
	・直播面積拡大(ha)	H23年産	1,304ha	1,453ha	1,782ha	2,094ha	2,500ha	2,366ha	94.6%	直播マニュアルを整備し、鉄コーティング直播等を推進し、取組が拡大した。
	・プレミアムつや姫産地取組拡大	H24	5産地	1産地増 (6産地)	1産地増 (7産地)	2産地増	産地数増/年	2産地増	○	新たに「JAあまるめブランド米振興会」と「山形市農業協同組合」は取組を開始した。
	・新規需要米作付面積の拡大(ha)	H24年産	3,302ha	2,441ha	3,046ha	4,865ha	5,600ha	5,022ha	89.7%	H25に生産数量目標が増加したことから、作付面積が減少したものの、その後、新規需要米作付け推進により面積が増加し目標を概ね達成した。

分野・品目	項目	基準年		H25年	H26年	H27年	H28年			H28年の概況 (達成・未達成の理由)
		年次	基準値	実績	実績	実績	目標	実績	達成度	
大豆・そば	大豆10a当り収穫量(kg/10a)	H24	154kg/10a	110kg/10a	155kg/10a	147kg/10a	170kg/10a	159kg/10a	93.5%	収量、品質に優れる「里のほほえみ」の作付拡大と高収量高品質技術の普及を大豆プロジェクト等で関係機関と連携して推進し、概ね達成した。
	大豆上位等級比率50%以上	H24	17%	20%	32%	46%	50%以上	54.3%	108.6%	収量、品質に優れる「里のほほえみ」の作付拡大と高収量高品質技術の普及を大豆プロジェクト等で関係機関と連携して推進し、達成した。
	県内実需者による県産大豆の利用率向上	H23年産	10～20%	22%	26%	26%	30%	27%	90.0%	大豆プロジェクト事業等で実需者ニーズの把握や利用向上を推進し、概ね達成した。
	「里のほほえみ」作付面積拡大(ha)	H24	782ha	1,150ha	1,462ha	1,817ha	2,500ha	2,448ha	97.9%	大豆プロジェクト事業を展開するとともに、JA等関係機関と連携して作付拡大を推進し、概ね達成した。
	県内実需者による県産そばの利用率向上	H23年産	25%	未調査	15%	11%	50%以上	30%	60.0%	そばプロジェクト事業等で実需ニーズの把握や情報交換等を進めているものの、産地の作柄、価格等で変動があり、未達成となった。
	そば10a当り収穫量(kg/10a)	H23までの5年平均	45kg/10a	35kg/10a	43kg/10a	33kg/10a	70kg/10a	36kg/10a	51.4%	そばプロジェクト事業を継続し、排水対策や収量向上技術の普及を推進しているが、8月中下旬の大雨等によって作柄に影響があった地域があるなど、未達成となった。
	県産そば2等以上割合	H23までの5年平均	65%	79%	90%	98.6%	80%以上	未公表(公表時期未定)	—	品質はH27産と同等と見込まれ、概ね達成する見込みである。

分野・品目	項目	基準年		H25年	H26年	H27年	H28年			H28年の概況 (達成・未達成の理由)
		年次	基準値	実績	実績	実績	目標	実績	達成度	
<b>【園芸作物】</b>										
果樹	さくらんぼの生産量(t)	H23	15,600t	13,500t	14,500t	13,200t	14,000t	15,000t	107.1%	結実確保対策が徹底され、開花期の天候に恵まれたことにより、目標は達成できた。
	ファーストレディの栽培面積(ha)	H23	60ha	70ha	72ha	74ha	100ha	73ha	73.0%	商品果率が低いため、栽培面積の増加が停滞し、目標を下回った。
	ラ・フランスの販売単価(円/kg)	H24	326円/kg	330円/kg	350円/kg	315円/kg	350円/kg	318円/kg	90.9%	果実肥大が旺盛で大玉に対応した売り場形成ができなかったため、ラ・フランスの価格はやや下回ったものの、目標は概ね達成できた。
	メロウリッチの栽培面積(ha)	H23	6ha	8ha	17ha	19ha	30ha	24ha	80.0%	ブランド販売戦略により、高価格で取引されていることから、栽培面積が徐々に拡大し、目標は概ね達成できた。
	シャインマスカットの栽培面積(ha)	H23	50ha	74ha	82ha	105ha	150ha	123ha	82.0%	平成28年は苗木の確保も順調であったことから、新規作付も増え、概ね達成できた。
	シャインマスカットの生産量(t)	H23	350t	611t	738t	850t	1,200t	1,010t	84.2%	結果樹面積が増加し、生産量が1,010tとなり、目標は概ね達成できた。
	もも晩生種の栽培面積(ha)	H23	120ha	138ha	158ha	176ha	280ha	188ha	67.1%	他樹種からの改植や新植は行われているものの、立枯れの発生により、栽培面積の増加が停滞したため、目標未達成となった。
野菜・花き	土地利用型野菜主要品目の生産量(t) (えだまめ、ねぎ、にら、アスパラガス)	H23	19,940t	18,200t	20,690t	20,020t	26,700t	7月末	—	えだまめは作付面積が増加により、生産量は増加の見込み。ねぎは、夏季の高温の影響で、生産量は減少する見込み。アスパラガスは、生産量は増加する見込み。にらは、夏季の高温等により昨年並み。全体として生産量は前年並みで、目標の生産量は概ね達成の見込み。
	トマトの生産量(t)	H23	9,810t	10,300t	11,000t	10,400t	11,000t	10,300t	93.6%	大玉トマトの生産量は前年並み。中玉トマト、ミニトマトは夏秋期の天候不順により、生産量は前年を下回った。このことから、生産量は前年並みで、目標は概ね達成の見込み。
	夏秋いちごの生産量(t)	H23	37t	37t	30t	30t	53t	7月末	—	・作付面積は減少する見込み。夏期の高温の影響により、単収は前年を下回る見込み。期間を通じた生産量は減少したため、目標の生産量は未達成の見込み。

分野・品目	項目	基準年		H25年	H26年	H27年	H28年			H28年の概況 (達成・未達成の理由)
		年次	基準値	実績	実績	実績	目標	実績	達成度	
野菜・花き	促成山菜(たらの芽、うるい、ふきのとう)の収穫量(t)	H20	210t	230t	260t	237t	280t	7月末	—	たらの芽は、立枯れ症の対策等により生産量は増加する見込み。うるいは、夏期の高温による生産量は減少する見込み。ふきのとうは、面積の減少により、生産量は昨年並みと見込まれ、全体として、目標の生産量は概ね達成の見込み。
	啓翁桜の生産量(万本)	H22	164万本	133万本	141万本	156万本	200万本	7月末	—	H27が出荷量が多くなった反動で、H28は収穫できる枝数が少なくなり、生産量は前年の6割程度で目標の生産量は未達成の見込み。
	おかひじきの収穫量(t)	H20	150t	230t	250t	280t	300t	7月末	—	・作付面積は主産地の置賜地域で前年より増加の見込み。年間の生産量は前年より増加し、目標の生産量は概ね達成の見込み。
<b>【畜産】</b>										
畜産	乳牛の飼養頭数(頭)	H24	13,200頭	12,900頭	12,600頭	11,800頭	14,550頭	11,300頭	77.7%	・生産者の高齢化等による廃業のほか、初妊牛価格の高騰が続いており、計画的な導入が進まないことや、交雑種の生産割合が高く、後継牛の確保が困難な状況にあり、飼養頭数が減少。
	肥育牛の飼養頭数(頭)	H24	35,960頭	36,220頭	35,050頭	32,760頭	39,600頭	32,080頭	81.0%	・和牛子牛価格の高騰が続いており計画的な導入が進まず、飼養頭数は減少したものの、目標はおおむね達成。
	繁殖牛の飼養頭数(頭)	H24	5,940頭	5,980頭	5,950頭	6,140頭	7,500頭	6,320頭	84.3%	・生産者の高齢化等による廃業が継続しているものの、増頭意欲のある担い手の規模拡大の取組みに対し支援を行ったことにより、飼養頭数は着実に増加し、目標はおおむね達成。
	養豚の飼養頭数(頭)	H24	167,500頭	160,400頭	156,300頭	150,000頭	185,900頭	148,400頭	79.8%	・高齢化等による廃業のほか、環境問題への懸念から、規模拡大のための用地が確保できず畜舎建設が進まないことなどにより、飼養頭数が減少。
	やまがた地鶏の飼養羽数(羽)	H24	8,000羽	9,000羽	14,000羽	16,000羽	17,000羽	14,200羽	83.5%	・平成27年度まで着実に増加していった中で、28年度は1名の生産者が廃業したこと等により一時的に減少したものの、目標はおおむね達成。

分野・品目	項目	基準年		H25年	H26年	H27年	H28年			H28年の概況 (達成・未達成の理由)
		年次	基準値	実績	実績	実績	目標	実績	達成度	
畜産	乳牛・販売額1,000万円の戸数割合の増加ポイント(戸数割合)	H24	59.6%	▲3.0% (56.6%)	+10.5% (70.1%)	+10.3% (69.9%)	+4% (63.6%)	+15% (74.6%)	375.0%	・意欲的な生産者の規模拡大や乳価アップにより、H24(基準年)の59.6%から15%増加し、目標は達成。
	肥育牛・販売額1,000万円の戸数割合の増加ポイント(戸数割合)	H24	62.8%	±0.0% (62.8%)	▲4.4% (58.4%)	▲0.1% (62.7%)	+4% (66.8%)	+1.2% (64.0%)	30.0%	・和牛子牛の高騰により導入が進まず、飼養頭数が減少していることが影響し、H24(基準年)の62.8%から1.2%の増加に留った。
	繁殖牛・販売額1,000万円の戸数割合の増加ポイント(戸数割合)	H24	5.6%	±0.0% (5.6%)	+2.4% (8.0%)	+8.5% (14.1%)	+2% (7.6%)	+2.9% (8.5%)	145.0%	・零細な農家経営が廃業する一方で、意欲的な生産者の規模拡大や和牛子牛価格の上昇により、H24(基準年)の5.6%から2.9%増加し、目標は達成。
	養豚・販売額1,000万円の戸数割合の増加ポイント(戸数割合)	H24	56.6%	+3.2% (59.8%)	+10.6% (67.2%)	+16.3% (72.9%)	+4% (60.6%)	+13.2% (69.8%)	330.0%	・零細な農家経営が廃業する一方で、意欲的な生産者の規模拡大等により、H24(基準年)の56.6%から13.2%増加し、目標は達成。
	やまがた地鶏・販売額200万円の戸数割合の増加ポイント(戸数割合)	H24	0.0%	+13.0% (13.0%)	+2.0% (2.0%)	+29.2% (29.2%)	+10% (10%)	+28.0% (28.0%)	280.0%	・販路拡大に伴い生産者の規模拡大が進んだことにより、H24年(基準年)から28%増加し、目標は達成。
	新規に畜産加工に取組む数(件/年)	H24	—	2件/年	2件/年	2件/年	2件/年	3件/年	150.0%	・県単事業や国庫事業を有効に活用することにより、目標件数を達成。
	新たな畜産加工食品の開発数(件/年)	H24	—	12件/年	6件/年	15件/年	3件/年	8件/年	266.7%	・県単事業や国庫事業を有効に活用することにより、目標件数を達成。
<b>【環境農業】</b>										
環境農業	エコファーマー農家戸数(戸)	H24	9,158戸	8,031戸	7,665戸	7,399戸	10,500戸	7,284戸	69.4%	・環境保全型農業に関する消費者等の理解が進んでおらず、また生産された農産物の優位性が低下しており、取組農家数が減少した。
	販売農家に占めるエコファーマーの割合(%)	H24	25%	23%	22%	23%	29%	23%	79.3%	
	特別栽培農家戸数(戸)	H24	8,517戸	8,265戸	7,907戸	8,167戸	9,000戸	8,681戸	96.5%	・特別栽培を要件とする「つや姫」生産拡大等により、目標値の概ね100%となった。
	特別栽培農産物認証面積(ha)	H24	13,984ha	13,890ha	13,652ha	14,290ha	15,000ha	15,044ha	100.3%	
	有機農業取組面積(ha)	H24	665ha	744ha	721ha	696ha	800ha	713ha	89.1%	・環境保全型農業直接支払交付金の事業推進等により、有機農業の取組みが増加し、目標は概ね達成した。
	鳥獣被害防止計画策定市町村	H24	13	19	21	24	25	31	124.0%	・計画未作成の市町村に対する指導・助言等により目標達成。

分野・ 品目	項 目	基準年		H25年	H26年	H27年	H28年			H28年の概況 (達成・未達成の理由)
		年次	基準値	実績	実績	実績	目標	実績	達成度	
<b>【6次産業化】</b>										
6 次 産 業 化	市町村等を単位とする6次産業化ネットワーク数(件)	—	—	12件	21件	26件	35件	26件	74.3%	・未形成市町村への情報提供や働きかけを行ったが、6次産業化の機運が高まらないこと等から形成が進まず、目標達成には至らなかった。
	県産農林水産物を活用した新商品開発取組み件数(件)	H24	17件	30件	43件	63件	42件	62件	147.6%	・地域土産品開発等推進事業の取組みにより、新商品開発件数が大幅に増加し、目標が達成された。
	売上高1,000万円以上の産地直売所数(件)	H23	84件	86件	86件	85件	90件	83件	92.2%	・商品開発支援や研修の実施、6次産業化の取組みに必要な施設整備への支援等により直売所の販売額は増加傾向にあり、目標は概ね達成した。
	年間販売額500万円以上の農産加工取組み者数(件)	H23	75件	72件	72件	79件	95件	82件	86.3%	・取組み段階に応じた指導助言、加工機械導入への支援、研修の実施等で農産加工の販売額は増加傾向にあり、目標は概ね達成した。
	食品製造業における県産農産物の使用割合(野菜・重量ベース)(%)	H24	33%	36%	37.6%	38.3%	40%	39.2%	98.0%	・食品製造業における契約栽培の取組み拡大、県産農産物の利用拡大の取組み(商品開発等)に必要な施設整備への支援等により使用割合が増加し、目標は概ね達成した。
	新たに開発された商品の定番化件数(スイーツプロジェクト)(土産品開発等推進)	—	—	—	3件	5件	10件	13件	130.0%	・地域土産品開発等推進事業の取組みにより、新商品の開発、販路の開拓が図られ、目標が達成された。
	県産米を使った米粉商品数(件)	H24	32件	179件	227件	237件	250件	247件	98.8%	・「ふるさと食品コンクール」の開催や土産品開発事業等による支援により、商品件数が増加し、目標は概ね達成した。
	米粉製品等の販売店舗(店)	H23	103店	132店	153店	158店	190店	168店	88.4%	・食品製造事業者等の需要の掘り起こしやスーパーマーケット等への働きかけにより取扱店舗数は増加し、目標は概ね達成した。
	やまがた米っ粉クラブの会員数	H24.12.3	1,196名	1,523名	1,522名	1,570名	1,700名	1,620名	95.3%	・HPやイベントでのPR等により会員数は年々増加し、目標は概ね達成した。

分野・品目	項目	基準年		H25年	H26年	H27年	H28年			H28年の概況 (達成・未達成の理由)
		年次	基準値	実績	実績	実績	目標	実績	達成度	
流通販売	東京中央卸売市場における県産農産物(野菜)取扱高割合	H24	1.2%	1.2%	1.3%	1.3%	1.4%	1.3%	92.9%	・主要県産農産物の知事トップセールス、百貨店・量販店・ホテル・レストラン等での「山形フェア」を通して県産農産物の認知・評価向上が図られたことにより目標は概ね達成した。
	東京中央卸売市場における県産農産物(果実)取扱高割合	H24	5.2%	5.3%	5.5%	5.6%	5.8%	5.7%	98.3%	同上
	西日本の主要市場における県産農産物(野菜)取扱金額(億円)	H22	4.35億円	3.44億円	4.40億円	4.82億円	4.57億円	(H29.7頃確定予定)	—	・主要県産農産物の販売プロモーション、百貨店・量販店・ホテル等での「山形フェア」を通して県産農産物の認知・評価向上が図られたことにより目標をほぼ達成する見込み。
	西日本の主要市場における県産農産物(果実)取扱金額(億円)	H22	30.50億円	25.98億円	25.76億円	31.16億円	32.03億円	(H29.7頃確定予定)	—	同上
	県産農産物の輸出数量(t)	H23	141t	227t	455t	987t	800t	(H29.6頃確定予定)	—	・県産米の輸出が牽引した結果、目標を達成する見込み。
	食の至宝 雪国やまがた伝統野菜の首都圏実需者との取引件数(件/年)	H23	20件/年	24件/年	30件/年	36件/年	40件/年	53件/年	132.5%	・産地見学会、商談会で伝統野菜を紹介するとともに、「食の至宝雪国やまがた伝統野菜PR大使」の活動によりホテル・飲食店等での取引が進み目標を達成した。
	県内の食の至宝 雪国やまがた伝統野菜料理提供店(店)	H24	32店	32店	84店	90店	100店	89店	89.0%	・各地域における「食の至宝 雪国やまがた伝統野菜」の継続したPRにより、目標は概ね達成した。
	食の至宝 雪国やまがた伝統野菜の生産量(t)	H23	5,784t	5,800t	約5,930t	4,715t	6,642t	(H30.2頃確定予定)	—	・品目によっては生産者及び栽培面積の増加もみられるが、伝統野菜全体では生産者及び栽培面積が伸び悩んでいるため、目標達成には至らなかった。



分野・品目	項目	基準年		H25年	H26年	H27年	H28年			H28年の概況 (達成・未達成の理由)
		年次	基準値	実績	実績	実績	目標	実績	達成度	
地産地消・食育	市町村における食育推進計画の策定	H24	54.3%	68.6%	71.4%	77.1%	100.0%	82.9%	82.9%	・未策定市町村に助言・働きかけを行った結果、策定市町村が増加し、目標は概ね達成した。
	学校給食における県産農産物の使用割合(指定野菜14品目)	H23	29.5%	30.2%	34.0%	36.3%	40.0%	34.4%	86.0%	・納入業者への働きかけや県産野菜の一次加工品利用提案など継続的に行ったが、天候不順により県産野菜の必要量を確保できなかったため、目標達成には至らなかった。
<b>【農村振興】</b>										
生産基盤整備	基盤整備を契機として、販売金額1,000万円以上に達する水準の経営規模拡大を図った農業経営体数(H23からの累計)	H23	19経営体	24経営体	41経営体	55経営体	69経営体	70経営体	101.4%	基盤整備の実施により、担い手への農地の集積・集約化が進み経営規模の拡大を図った農家が増加し、H28目標を達成
	園芸産地の拡大と新たな産地形成に寄与する水田畑地化面積(ha)(H23からの累計)	H23	165ha	1,490ha	2,452ha	3,430ha	3,900ha	3,906ha	100.2%	水田の排水改良工事等の実施により、水田畑地化が進み、H28目標を達成
	基幹水利施設の保全対策面積(ha)(H23からの累計)	H23	1,904ha	5,830ha	6,520ha	9,500ha	19,900ha	16,400ha	82.4%	基幹水利施設ストックマネジメント事業により、新たに受益面積6,900haの保全対策が完了し、H28目標を概ね達成
生産基盤整備	ため池等農業水利施設に係る防災・減災対策の推進箇所(H23からの累計)	H23	0箇所	16箇所	50箇所	90箇所	100箇所	129箇所	129.0%	県作成の基図を基に市町村が新たに39箇所のハザードマップを作成し、H28目標を達成
	農業水利施設を活用した小水力発電の発電量(kW)(H23からの累計)	H23	400kW	598kW	1,233kW	1,360kW	1,400kW	1,400kW	100.0%	新たに1箇所(月光川)の小水力発電施設の整備に着手したことにより、H28目標を達成

分野・品目	項目	基準年		H25年	H26年	H27年	H28年			H28年の概況 (達成・未達成の理由)
		年次	基準値	実績	実績	実績	目標	実績	達成度	
<b>【林業】</b>										
林業・木質バイオマス板	木材(素材)生産量(万m <sup>3</sup> )	H23	29万m <sup>3</sup>	31万m <sup>3</sup>	32万m <sup>3</sup>	36万m <sup>3</sup>	50万m <sup>3</sup>	43万m <sup>3</sup>	86.0%	大型集成材工場の原木集荷が9月から開始(12月から試験稼働開始)され、森林組合等の林業事業者が生産体制を強化したことにより、昨年度より約7万m <sup>3</sup> 増加した。
	新たに建設する公共施設(3,000m <sup>2</sup> 以下)の木造化建物率	H23	60%	86%	100%	50%	100%	調査中 29年5月末 取りまとめ	—	計画されていた公共施設の中に、耐久性が必要な施設など木造化が困難な施設が含まれていることから、目標達成は難しい状況となっている。
	高性能林業機械利用台数	H23	44台	53台	82台	92台	100台	調査中 29年12月 取りまとめ	—	国庫補助を活用した高性能林業機械の導入支援に加え、機械の貸付制度により着実に台数が増加しており、目標が達成できる見込みある。
	木質バイオマス燃料の生産量(万t)	H23	1万t	1万t	2.5万t	3.4万t	8万t	調査中 29年6月 取りまとめ	—	県内各地で木質バイオマス発電所が計画されているが、整備が予定より遅れていることから、目標数量の達成は難しい状況となっている。
山菜・きのこ	山菜・きのこ類の生産量(t)	H23	11,530t	10,427t	10,978t	29年2月 国公表予定	14,245t	29年9月 国公表予定	—	震災の影響から生産量が大きく落ち込み、毎年、目標を下回ってきているが、近年、市場価格が大幅な回復傾向となっており、生産量も前年を上回る見込みである。
	栽培拡大に向けた取組み支援件数(H25からの累計)	H25	—	21件	38件	58件	80件	83件	103.8%	近年の市場価格の上昇から、生産者が生産量の拡大に取組んでおり、計画を上回る地区数となっている。
	加工品開発に向けた6次産業化の取組件数(H25からの累計)	H25	—	2件	2件	8件	12件	8件	66.7%	支援内容の周知を行ったが、加工部門で新たに支援を要望する団体がなく、目標達成ができなかった。

分野・品目	項目	基準年		H25年	H26年	H27年	H28年			H28年の概況 (達成・未達成の理由)
		年次	基準値	実績	実績	実績	目標	実績	達成度	
<b>【水産業】</b>										
水産業	海面漁業経営体数を400経営体確保	H20	416経営体	359 (H25)	—	—	400経営体	—	—	※5年毎の漁業センサスによる把握
	県内内陸部への流通比率	H23	9.5%	市場流通 4% (市場外含 11.8%)	市場流通 3.5% (市場外含 11.2%)	市場流通 4.1% (市場外含 11.3%)	13%	市場流通 5.0% (市場外含 7.6%)	58.5%	・山形市公設卸売市場において取扱いの多くを占めるスルメイカが、旬である初夏に漁獲量が少なく、かつ、魚価単価(H27:371円→H28:614円)の高騰により、代わりとなる県外産の魚種(マグロ、サンマ等)の取扱いが増えたことで庄内浜産水産物の流通量が減ったもの。 ・春、秋の「おいしい山形旬の魚キャンペーン」開催時期に売れ筋の魚種であるスルメイカ(前年5月比53%)やサケ(前年10月比28%)の漁獲量が少なく、魚価単価も高騰したため流通量が伸びなかった。
	水産加工生産量(t)	H23	2,627t	3,372t	3,687t	4,061t	2,800t	(H29.9頃発表予定)	—	
	全国豊かな海づくり大会の開催	—	—	準備委員会設置 基本構想(案)策定	実行委員会設置 基本構想・基本計画策定	実施計画策定 イベント実施	実施本部設置 大会開催	実施本部設置 大会開催	○	
<b>【研究開発】</b>										
研究開発	新品種・新技術開発件数	H20～H23	69件  (4年間)	36件  (H25)	57件  (H25～26累計)	77件	80件  (H25～28累計)	102件	127.5%	・生産者等に情報提供する新品種・新技術は、普及カード17件、「目で見える研究成果」13件(うち普及カードと同一は6件)、品種登録出願1件の計25件(重複除く)が得られた。 ・水稲1品種(雪若丸)を品種登録出願